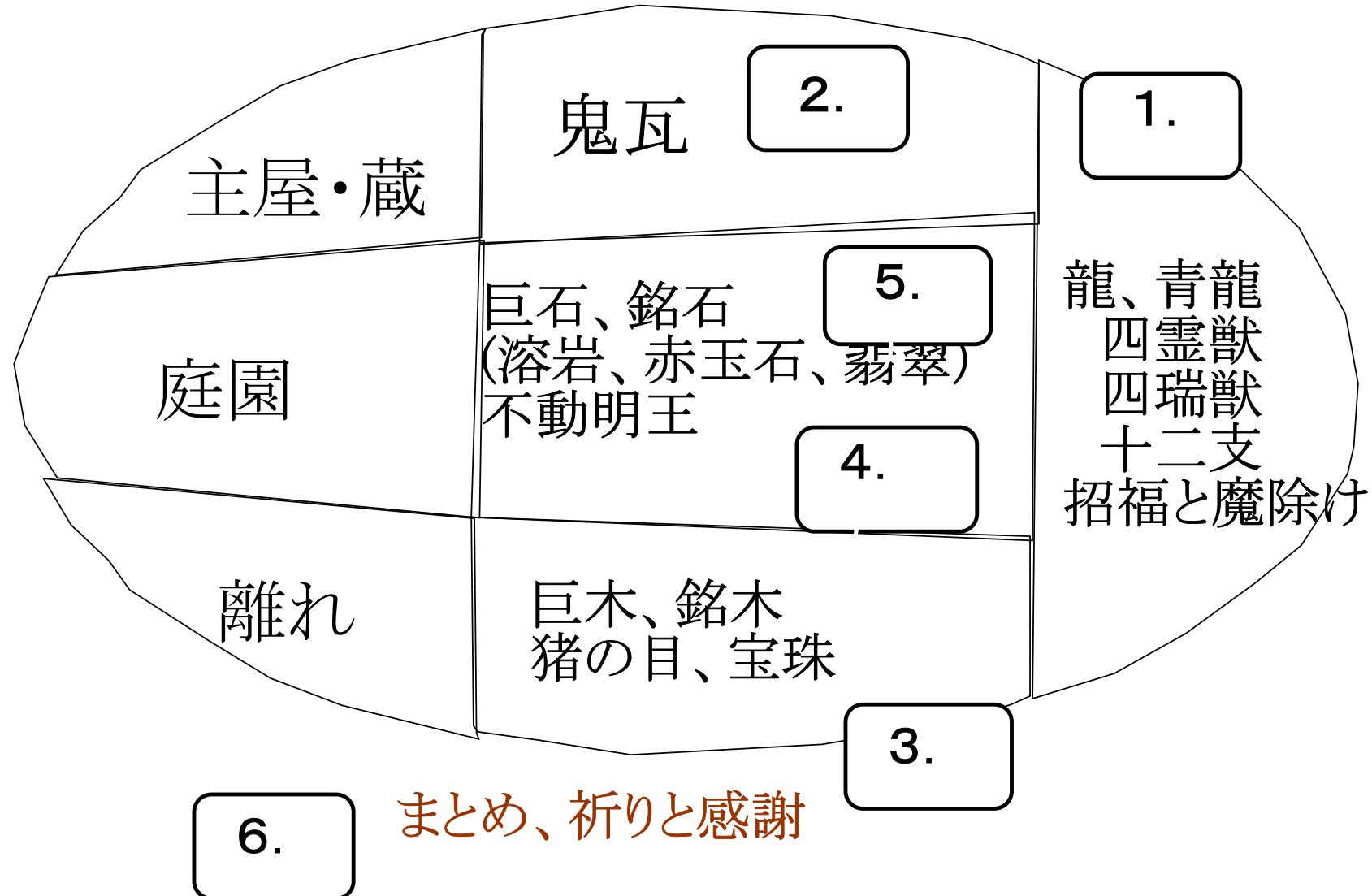




機那サフラン酒本舗は  
パワースポットです

MfG\_J\_Kekkai\_in\_Kina-Saffron\_shu\_brewery.ppt  
結界、パワースポット

# 際限なく埋め尽くす、機那サフラン酒の パワースポット



パワースポットの源は (Spiritual\_places)

{  
自然のエネルギー、生命力への畏敬  
人間の大いなる営みへの敬意  
神仏への祈り、報恩感謝  
魔除けへの祈り、感謝

機那サフラン酒で、それは具体的には

{  
根本は、生涯の仕事と定めた薬種への誓い  
～薬師如来の守護神、一対の龍への祈り  
ありとあらゆる守護神、招福と魔除け  
祈りと感謝

ポイントは二男の仁太郎さんの青年期の身の上

5才で摂田屋にある母の実家・薬屋の養子となり、  
17才で千手の薬種問屋商に奉公に出たこと。  
21才でサフラン酒の製造を開始し、  
28才で養子縁組を解消し、実家に復帰。  
31才のとき、定明から摂田屋に移転、本格的に事業開始。

仁太郎も、当初から、生家の家業の薬酒造りに関わることになっていたのでしょう。幼い頃から、生涯の仕事を薬種、薬酒に関わる覚悟を決め、いつの日か、薬の象徴として、薬師如来を頼ることになったのでは。

- ① 近所の村松・医王山円融寺で、本尊の薬師如来、本堂欄間の龍の彫刻を見て、家業の薬種との縁を知る
- ② 薬師如来を莊厳する、多くの持物(アトリビュート)を知る。～双龍、四神、十二神将、…
- ③ 魚沼の西福寺への再三の見物で、仁太郎の関心は、雲蝶の「龍、仏法の守護」だけでなく、その背後にある、大龍和尚の「人々へのねぎらい、感謝」にも気づいた。
- ④ 神仏のみならず、顧客・仕事上の関係者、普段からの協力者の近隣住民、そして家族・一族への「感謝」に至る。

生涯の、それぞれのタイミングで、いろいろな形で、薬師如来の功德を莊厳しようとした。それが、仁太郎ワールドである。

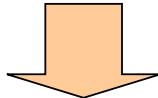
(A) 龍を中心とした

魔除け・招福による祈りの空間

(B)訪問者を悦ばす、おもてなしの心が溢れた、

知的な謎解きのテーマパーク

## (A) 龍を中心とした 魔除け・招福による祈りの空間



鬼瓦の二匹の龍は、薬師如来を想起させる  
登り龍と下り龍である。

龍は、水を操り大地を潤す五穀豊潤のシンボルで  
あり、仏法の守護神である。

薬師寺・薬師如来の台座に如来を莊厳するアイテム  
四神、十二神将四神、葡萄唐草文様で  
飾り立てよう。きっと、守ってくれる。

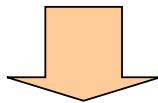


双龍の鬼瓦



まぐさ上の葡萄唐草模様

## (B)訪問者を悦ばす、おもてなしの心が溢れた、 知的な謎解きのテーマパーク



現代と違い、当時の農村は、相互扶助の世界。  
人手が足りない時は、近くの住民が助け合い、  
仁太郎さんも、それに助けられたのでは。

お客様、取引先だけでなく、近隣の住民にも、  
悦んでもらう、娯楽を提供したいという気持ち。

仁太郎は伊吉を連れ、魚沼・西福寺の「道元禅師猛虎調伏の図」を再三訪れたそうです。

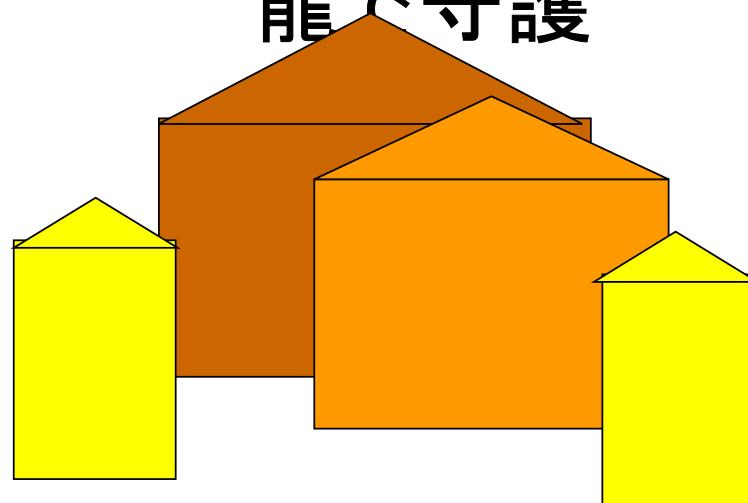
江戸末期の方丈、蟠谷大龍和尚は、この雪深く貧しい農村地域の人々の心の拠り所となるお堂を建てたいという前住職の志を引き継ぎ、この開山堂にも、人々の心を豊かで幸せに導いて下さるお釈迦様や道元様の教えの世界を再現したいと考えたと伝えられています。

サフラン酒の錆絵や龍のシンボルも同様で、この「人々の心の拠り所」、「苦しい生活のなかの、束の間の休息」という見方も、重要なキーワードであると思っています。

# 衣裳蔵と鎧絵蔵

店舗・主屋を含めた完成形は

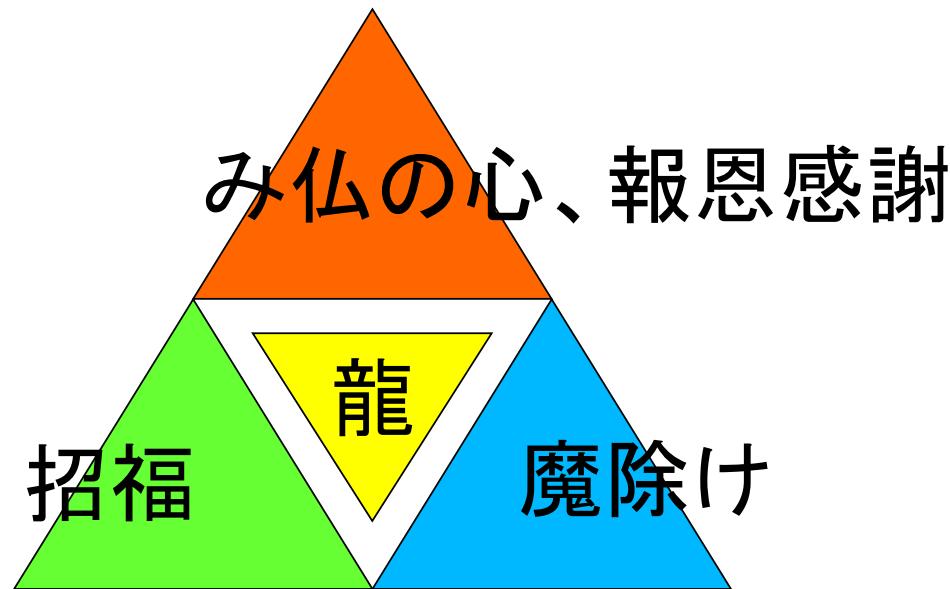
店舗・主屋は、  
龍で守護



衣裳蔵の  
鯉は  
努力の昇り竜

鎧絵蔵の  
青龍は  
感謝と祈りの  
降り竜

守護神は、龍、招福と魔除け。  
～ サフラン酒のいろいろな装飾は、  
下図に集約できるような気がしています。



それが、仁太郎ワールド

単純化すると…

薬種・ 薬師如来

十二神将

登り龍と下り龍

四方・八方の守護神

双龍

衆生の救済

四靈獸

十二支

龍

招福・魔除け

人々の安寧、五穀豊穣、商売繁盛、子孫繁栄への祈り

## (A) 龍を中心とした 魔除け・招福による祈りの空間

- (1) 鬼瓦を使った結界
- (2) 四神(式神)を使った結界
- (3) 十二支を使った結界
- (4) 魔除け・招福の「しつらえ」に託した  
たくさんの結界

# 1. 龍、鯉を探すと…

龍が38 (藤森先生は数えられた)

鬼瓦のある建物8棟として  $8*2*2 = 32$

その他、池の噴水、離れの屏風…

鯉が10 衣装蔵に二匹、コレクションの鯉仙人、

その他、池に大きな鯉…

| Facility   | 龍 | 鯉     | 巨石材木 | 不動明王 |
|------------|---|-------|------|------|
| 鎌絵蔵の軒下     | ○ |       |      |      |
| 鎌絵蔵の東面の鬼瓦  | ○ |       |      |      |
| 衣装蔵        | ○ | ○     |      |      |
| 庭園         | ○ | ( ○ ) | ○    | ○    |
| 接待用別邸(離れ)  | ○ |       | ○    |      |
| 鎌絵蔵コレクション室 | ○ | ○     |      | ○    |

## 龍・双龍、支、四靈獸の見直し

|       |   |
|-------|---|
| ※薬師如来 | 両脇に日光・月光菩薩、あるいは<br>登り龍・降り龍の双龍を従える。                          |
| ※十二神将 | 薬師如来の世界を結界で守る大将で、<br>十二の方角を守っていることから、<br>干支(十二支)の守護神としても信仰。 |
| ※十二支  | 穀物の十二力月、五穀豊穰  |
| ※四靈獸  | 四方の守護神  |

## 仏法

|             |           |
|-------------|-----------|
| ※守護神で<br>暗喩 | 龍、不動明王、宝珠 |
|-------------|-----------|

ポイントは二男の仁太郎さんの青年期の身の上  
5才で摂田屋にある母の実家・薬屋の養子となり、  
17才で千手の薬種問屋商に奉公に出たこと。  
21才でサフラン酒の製造を開始し、  
28才で養子縁組を解消し、実家に復帰。  
31才のとき、定明から摂田屋に移転、本格的に事業開始。

元々、家業の薬酒造りを継ぐことになっていたのでしょうか。仁太郎も、幼い時期に、生涯の仕事を薬種、薬酒に関わる覚悟を決め、薬師如来を頼ることになったのでは。

その薬師如来を守護する龍を、頼みとすることになったと考えると…。



薬師如来と宝珠



登り龍と下り龍を随える薬師如來  
大乗佛教の菩薩道、「上求菩提・下化衆生」

登り龍は、淨土にある悟り、幸せの宝珠を求め、懸命に修行する菩薩の姿、

下り龍は、求めていた宝珠を得て、地上のありとあらゆる生命を救済するため、地上に戻る菩薩の姿。

大乗仏教の菩薩道、「上求菩提・下化衆生」をも意味すると、考えたいです。

～ 龍も、怖いもの、恐れの対象から、守護神へと変化していくことになります。



村松・医王山円融寺の本堂欄間  
龍の彫刻（江戸末期の作）

仁太郎は伊吉を連れ、魚沼・西福寺の「道元禅師猛虎調伏の図」を再三訪れたそうです。

蟠谷大龍和尚は、この雪深く貧しい農村地域の人々の心の拠り所となるお堂を建てたいという前住職の志を引き継ぎ、この開山堂にも、人々の心を豊かで幸せに導いて下さるお釈迦様や道元様の教えの世界を再現したいと考えたと云います。

サフラン酒の錆絵や龍のシンボルも同様で、この「人々の心の拠り所」という見方も、重要なキーポイントであると思っています。

## 2. 次は、魔除けの鬼瓦

起源はメドウーサ（中東、ギリシャ文明）

ギリシャ・ローマ文明から中東の王国に  
引き継がれ、さらにインド、中国を経て  
日本へ辿りつき、それが鬼瓦になった。  
(日本)

鬼瓦に巻き付く龍も、登場

## 龍、魔除けの見直し

|         |   |
|---------|---|
| ※メドウーサ  | ギリシャ、中東の神話に起源を持つ、邪氣をはらい侵入者を防ぐ怪物。            |
| ※ナーガ    | インド神話に起源を持つ、蛇の精霊。コブラのいない中国では漢訳経典において「竜」と翻訳。 |
| ※みずち(蛟) | 日本の神話・伝説の水神。                                |
| ※龍      | 恐れの対象から守護神へと変容                              |
| ※猪の目    | 恐ろしいものから「魔除け」に変容                            |

# メドウーサ (Medusa)

## 邪気をはらい侵入者を防ぐ怪物

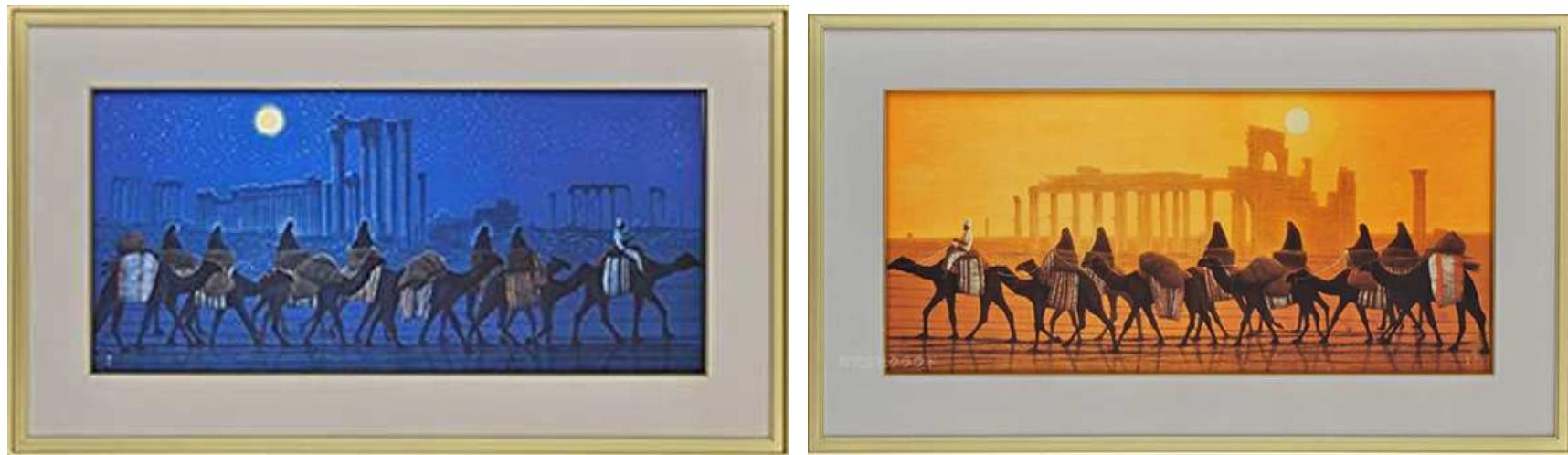


570 B.C.

蛇を巻いた髪、大きな耳。

# メドウーサ

紀元三世紀ころに滅んだ隊商都市パルミラの地下墓の入り口に、飾りとして存在すること



紀元前1世紀～3世紀のパルミラ  
「パルミラ遺跡 夜、朝」 平山郁夫さんの大作

ナーガ

インド神話に起源を持つ、蛇の精霊、蛇神のこと。

元来コブラを神格化した蛇神であったはずだが、コブラの存在しない中国では漢訳經典において「竜」と翻訳され、中国に元来からあった龍信仰と習合し、日本にもその形式で伝わっている。

みずち(蛟)

日本の神話・伝説で水と関係があるとみなされる。

竜類か伝説上の蛇類または水神。「みつち」

日本で、恐ろしいものから、  
魔除け、守護神へと役目を  
変えた



## 鬼瓦に巻き付く龍

清水寺三重塔 創建は 平安初期(841)

龍は雨を呼び 火を防ぐ守護神  
鬼瓦の厄除けと合体したと  
みることができる



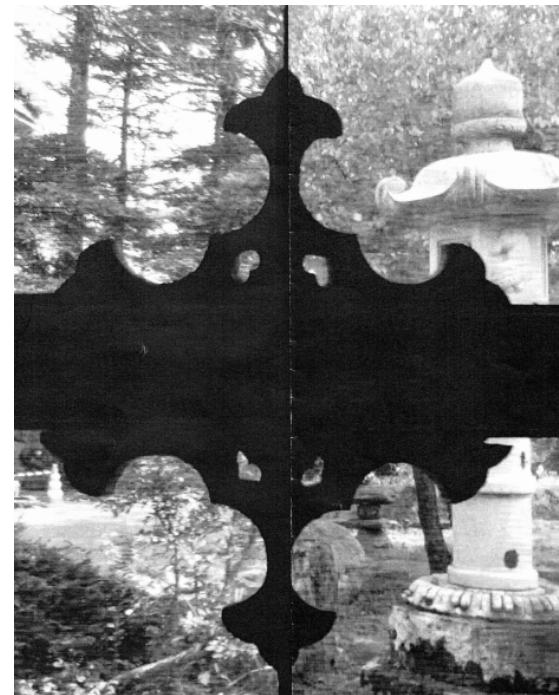
サフラン酒  
主屋の鬼瓦



### 3. 猪の目

農耕の始まった縄文時代、人々が栽培した食物を食い荒らすイノシシを恐れた。

猪の目も、恐ろしいものから「魔除け」に変容したと考えられる。



(編集しています)

サフラン酒の離れ、猪の目

猪の目は、日本の古くより、  
魔除けのシンボルに使われてきた。

近世では、武士の刀の锷、社寺の棟木  
の端や鈴に見られる。

更に、縄文土器にも、見ることができる。

(蛇、カエルは再生のシンボルであり、  
イノシシは魔除けのシンボル)

# 火焔型土器 の猪の目

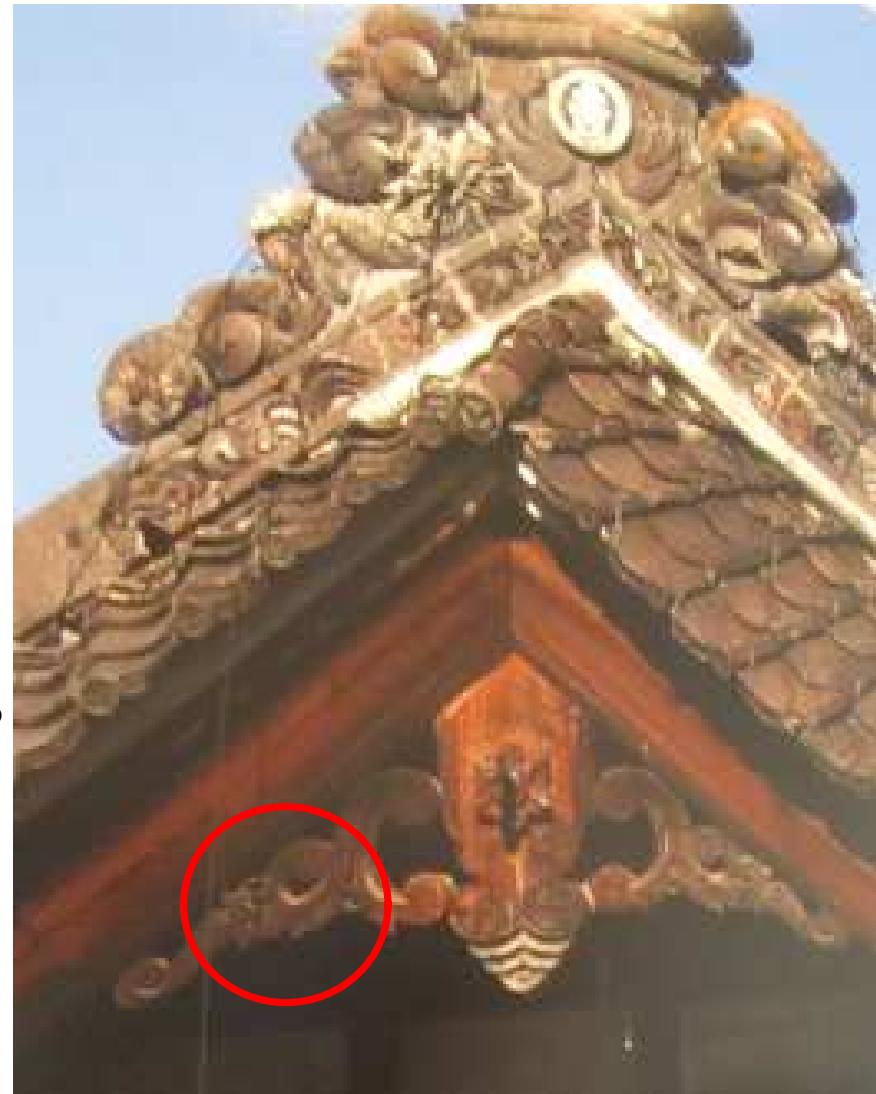


この猪の目、刀の鎧や  
神社仏閣の鈴に見る  
ことができ、古くから  
魔除けのシンボル  
なのですが、  
実は、縄文土器にも  
あるのです。  
縄文の昔から、  
日本人の心にある  
魔除けなのです。



猪の目は、主屋の鬼瓦  
の下の「懸魚」(げぎよ)  
にも、見られます。

「懸魚」とは、神社やお寺の屋根が、切妻造りか入母屋造りのとき、その破風板部分に取り付けられる妻飾りのこと。「懸魚」とは、文字通り「魚を懸ける」ことで、水と関わりの深い魚を屋根に懸けることで「水をかける、火防」の意味に通じているそうです。



## 4. 不動明王

## 5. 巨石、銘石

皆さん、ご存知のことですので、  
今日は省略します。

## 6. まとめ ~ 祈りと感謝

仁太郎さんにとって、  
信仰とは何であったか。

仏法とは何であったか。

おびただしい数の龍の意味  
龍、鯉、不動明王、…

単純化すると…

薬種・ 薬師如来

十二神将

登り龍と下り龍

四方・八方の守護神

双龍

衆生の救済

四靈獸

十二支

龍

招福・魔除け

人々の安寧、五穀豊穣、商売繁盛、子孫繁栄への祈り

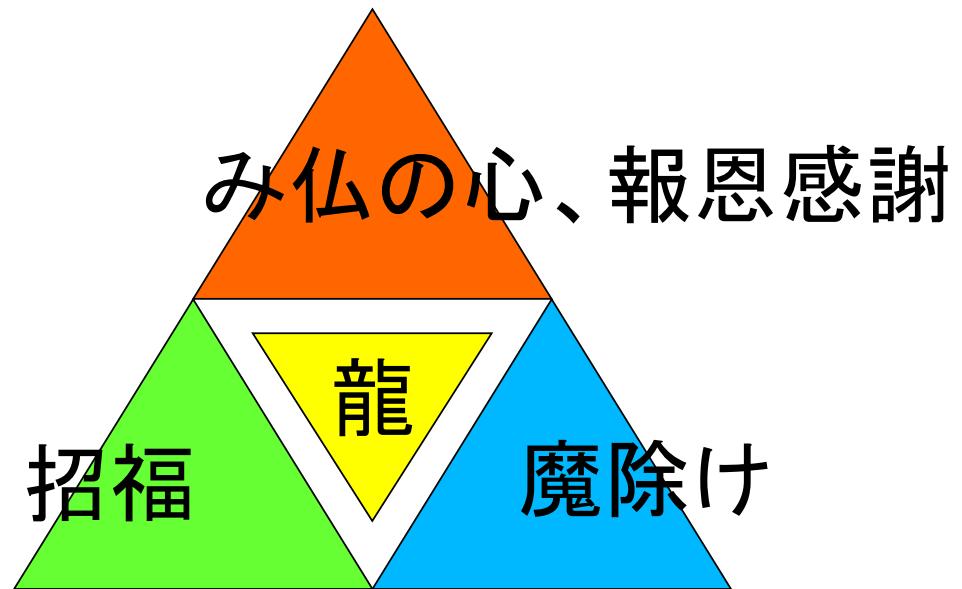
## 最後に

仁太郎さんは、東洋思想、仏教思想に造詣の深い、希有の思想家だったと思っています。  
一方、茶道もたしなむ趣味人でもありました。

鎧絵蔵の東面の絵柄の配置と、  
衣装蔵の鎧絵との関連、  
これしか、あり得ない「絶妙の配置」の話も  
いつか。

聞いていただき、ありがとうございました。

守護神は、招福というより、魔除け。  
～ サフラン酒のいろいろな装飾は、  
下図に集約できるような気がしています。



それが、仁太郎ワールド